

各関係機関、団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報について（送付）

病害虫発生予察注意報（第3号）を下記のとおり発表したのを送付いたします。

令和4年度 病害虫発生予察注意報（第3号）

令和5年3月31日

愛媛県

病害虫名 ベと病

作物 たまねぎ

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- (1) 3月上中旬の定点調査では、過去6か年と比較すると発生圃場率及び発病株率ともに、平年よりやや高い（表1）。
- (2) 3月上中旬の広域調査では、県全体の発生圃場率20.3%、発病株率1.04%であり、過去6か年と比較する発生圃場率及び発生株率ともに高い。特に、東予地域では他の地域に比べて発生が多くなっている（表2）。
- (3) 3月23日発表（高松地方气象台）の1か月予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並とされているが、3月25日～4月7日にかけて低気圧や前線の影響で降雨や曇天になると予想されており、さらに発生拡大が懸念される。

4 防除上の注意

- (1) 越年罹病株（一次伝染株）は、やや萎縮し葉身が湾曲する（写真1）。湿潤な気象条件下（気温15℃前後、降雨が続く場合）では、罹病株上に多量の分生胞子が形成され、周辺に飛散し二次伝染を起こす（写真2）。分生胞子は広範囲に飛散するため、地域一体となって防除すると効果が高まる。
- (2) 圃場観察は丁寧に行い早期発見に努め、越年罹病株は直ちに抜き取り、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努める。
- (4) 発病後では薬剤の防除効果が劣るので、早くから計画的に散布を実施する。なお、たまねぎの葉身は薬液の付着性が悪いため、展着剤を必ず加用する。
- (5) 防除は降雨等の天候を考慮しながら7～10日間隔で行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション使用する。
- (6) 農薬の散布にあたっては農薬安全使用基準を順守し、周辺農作物への飛散防止対策を徹底する。

表1 定点圃場におけるべと病の発生調査結果

調査圃場数	発生圃場率(%)		発病株率(%)	
	R5.3	平年	R5.3	平年
6	33.3	24.2	2.7	1.4

- 1) 調査対象は越年罹病株および二次伝染株  
 2) 平年: H26、H30～R4(6か年)の平均

表2 広域調査におけるべと病の発生調査結果(普通期)

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)		発病株率(%)	
			R5.3	平年	R5.3	平年
東予	60	24	40.0	10.9	2.40	0.24
中予	59	3	5.1	8.7	0.05	0.22
南予	29	3	10.3	11.2	0.17	2.61
県全体	148	30	20.3	10.1	1.04	0.63

- 1) 調査対象は越年罹病株および二次伝染株  
 2) 平年: H29.3～R4.3(6か年)の平均



写真1 越年罹病株（一次伝染株）



写真2 二次伝染による多発圃場